

主 題：新しいいのちの人生

聖書箇所：コロサイ人への手紙 3章1－4節

この場でメッセージができるすばらしい特権を与えられたことを心から感謝いたします。私はこの浜寺聖書教会に通い始めて約8年になります。月日が経つのは早いものだと思います。私のために祈り支えてくださり、また、お交わりをしてくださったことも心から感謝いたします。

メッセージに入る前に、少し、私自身のことについて話します。私は幼いときは聞こえていましたが、途中から聞こえなくなりました。高熱のための薬の投与によって耳が聞こえなくなったのです。そこから、聴の世界から聾の世界へと入ったのです。私はこの社会の中で聾者として生きて行くことになりました。聾の文化、聾の世界をもって聴者の中へ入って行くのです。聴者から聾者へと大きな変化がありました。

実は、皆さんも大きな変化を経験しておられます。それは、私たちがイエス・キリストを信じる信仰をもったことによって大きな変化が起こったということです。私たちは神から新しいいのちを与えられました。それゆえに、新しい生涯、新しい人生が始まったのです。私たちは新しい人生を生きる者とされたゆえに、考えなければならないことがあります。新しいいのちを与えられた者としてどのように生きて行かなければならないのか、そのことについて私たちは考えなければいけません。私たちがそのことを考えず、そのことを理解しないで生きて行くなれば、新しいいのちが与えられた者にふさわしい生き方をすることができるのでしょうか？それはできないことだと私たちは分かっています。ですから、今から、クリスチャンとして生きるべきその生き方について学びたいと思います。それだけでなく、なぜ、そのように生きなければいけないのかという、その理由についても学ばなければいけません。それによって、私たちが新しいいのちにふさわしい生き方をして行くことができるようになることを願っています。そのことについて、みことばはこのように教えています。コロサイ人への手紙3章1－4節をご覧ください。

- 3:1 こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。
- 3:2 あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。
- 3:3 あなたがたはすでに死んでおり、あなたがたのいのちは、キリストとともに、神のうちに隠されてあるからです。
- 3:4 私たちのいのちであるキリストが現われると、そのときあなたがたも、キリストとともに、栄光のうちに現われます。

☆新しいいのちの人生

A. クリスチャンが生きるべき生き方 1－2節

新しいいのちを与えられた者にふさわしい生き方を見て行きましょう。3：1－2にパウロは二つの命令を上げています。

1. 上にあるものを求める 1節

1節に「上にあるものを求めなさい。」とあります。これは命令文です。「してもいい、いなくてもいい」という選択ではなく、しなければならぬことです。「求める」とは「何かを得るために必死になっている姿」を表わします。気楽に「これが欲しいなあ…」という思いではなく、一生懸命にそれを求める姿です。しかも、それは自ら進んでそのようにしようとします。与えられるのを待つのではなく、自分から進んで必死にそれを求めようとするのです。そして、このことばは一度だけでなく求め続けるという継続を表わします。

では、何を求めるのでしょうか？「上にあるものを求める」と言います。「上にあるもの」とは何ですか？1節に記されている通り、「そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。」です。このことについて、イエスが非常に分かり易い説明をしてくださっているところがあります。マタイの福音書6：33を見てください。「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。」、ここから、二つのものを求めることが見て取れます。「神の国」と「神の義」です。

(a)神の国＝これは天国のことでしょうか？実際の国を指しているのでしょうか？そうではありません。これは神のご支配のことです。神に支配されることを求めることです。神のみこころが行なわれることを何よりも求めることがここで言われているのです。神のご支配を求めると言ったとき、一般的に何か自由がないようなイメージがあります。けれども、私たちがよく考えなければいけないことは、救われた私たちは神に支配されるときに、神に喜ばれる生き方ができるということです。もし、私たちが

自分の思い通りに生きて行き、神のみこころ、支配を求めないなら、神は悲しまれます。だから、私たちは神の前に正しく生きたいと願うゆえに、神に支配されることを何よりも願うのです。それが「神の国を求める」ということです。

(b) **神の義**＝これは神の完全な義を求めるということです。私たちは神の前に完全に正しい生き方をしているかと問われたら、それはできていません。神の義とこの世が求める義とはその基準が違います。私たちは神の基準に沿って、神の基準を求めて生きて行かなければいけないのです。そのように生きて行くとき、間違いなく、神は喜んでくださることを私たちは知っています。義とは罪を犯すことなく正しい道を歩むということです。私たちはそのためにみことばを知らなければいけません。みことばに神の基準があるからです。神の義を知ってその通りに生きて行かなければいけません。

私たちは自分の力でそのことを為すことはできません。ですから、神の義を神の助けによって行なうことができるように、切に求めて行かなければいけないのです。ですから、イエスが言われることは「**まず第一に求めなさい。**」です。何よりもそのことを優先しなければならないということを教えているのです。単に、そのことを一回求めたらそれでよしではなく、いつまでも求め続けることです。たとえば、自分の愛する人がいるなら、私たちはその人のために犠牲を払い、その人を喜ばせようと一生懸命になります。それと同じように、クリスチャンは神を愛するゆえに神を喜ばせようと、そのことを切に求めるのです。

2. 上のものを思う 2節

2節に「**あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。**」とあります。「**地上のものを思わず**」とは「そのことを心配してはいけない」ということです。「**天にあるものを思いなさい。**」とは「**天にあるものに心を留めなさい**」ということです。「**求める**」と「**思う**」は非常に内容が似ているので、大きな違いはありません。ここでパウロが言わんとしていることは、地上のことに心を奪われて、そのことを心配してはいけないということです。地上のことに専心してしまうようなことはあってはならないということです。反対に、何よりも「**天にあるもの**」に心を留めなければいけないのです。「**思いなさい。**」ということばも、現在形の命令です。それは、自らそのことを求め、そのことを為して行こうとすることです。単に、知識で理解しておればよいというわけではありません。神が喜ばれること、神のみこころは何かを考えて、それを実践するためにどうすればいいのかということに思いを馳せることです。

私たちがクリスチャンになる前のその生き方は、地上のことだけに思いを馳せるものでした。神を無視して、自分が良いと思うことをやって来ました。それら地上にあるものはどのようになって行くのか、パウロはそれについてもこのように教えています。ピリピ3：19「**彼らの最後は滅びです。彼らの神は彼らの欲望であり、彼らの栄光は彼ら自身の恥なのです。彼らの思いは地上のことだけです。**」、「**地上のこと**」、すなわち、仕事や名誉、プライドなど、自分のために考える思いの「**最後は滅び**」であると教えているのです。私たちが地上のことに心奪われているなら、それは間違っていると教えられます。それよりも「**天にあるものを思いなさい。**」と言うのです。

気を付けなければいけないことは、パウロは「**もうこの世と関わりをもたなくてもよい**」と言っているのではないことです。たとえば、このとき、地震のために大きな災害が起こり、多くの人々が復興のためにボランティアに行ったり、義援金を募ったりしています。クリスチャンはそのことについて、この世の心配をしないからと言って、その助けをしなくてもいいのでしょうか？そうではありません。私たちが考えなければいけないことは、何をもって助けをするのか？ということです。ただ、お金を出して必要を満たすために助けるのでしょうか？「**上にあるものを求める**」私たちは、神の救い、神の福音を彼らにどのように伝えることができるのかを考えて助けをして行かなければいけません。彼らが救われるように考えながら、彼らを助けて行くのです。これが「**上にあるものを思う**」ということです。

B. なぜ、そのように生きるのか？ 3-4節

私たちは毎日の生活の中で、地上のもの、この世のものを思ってそのことに心を奪われてしまうことを止めなければいけません。クリスチャンが生きるべき生き方は「**上にあるものを求め、上にあるものを思う**」ということです。その生き方を私たちはしっかり身に付けて行かなければいけません。問題は、日々の生活の中ですぐに目の前の様々な問題に心奪われ、落ち込んだり、悲しんだりすることです。もしかすると、私たちに「**上にあるものだけを思う**」ことは、この人生において何か不足があるのではないか？もっとこの地上のものを加えなければいけないと考えてしまうことはないでしょうか？自分の必要を満たすために地上のものを求め、地上のものを思っていないでしょうか？それは、新しいいのちが与えられた者にふさわしい生き方とは言えません。そこで私たちは、なぜ、そのような生き方をしなければならないのかという、その理由を知る必要があります。

1. クリスチャンはもう神のものだから 3節

3節に「**あなたがたはすでに死んでおり、**」とあります。もう一つ見ていただきたいのは1節の「**もしあ**

あなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、」と書かれているところです。この部分の口語訳はとても分かり易い訳がなされています。「あなたがたはキリストとともによみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。」です。「キリストとともによみがえらされた」、つまり、私たちは神の所有物となったのです。神が新しいいのちを与えてくださったゆえに、私たちはもう神のものなのです。ですから、私たちは過去の生き方はもう終わり死んだものであると言えます。神に逆らい神を悲しませる生き方はもう終わった、もう死んだと言うのです。そのことに関してローマ6：2にこのように記されています。「絶対にそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが、どうして、なおもその中に生きていられるでしょう。」、過去の自分は死んだにもかかわらず、なぜ、同じ生き方を繰り返すか、そのようなことはあってはいけないと教えるのです。この「死ぬ」「生きる」とは肉体的な死、いのちのことではありません。これは霊的ないのち、永遠のいのちのことです。これは目に見えるものではありません。なぜなら、このコロサイ3：3に「あなたがたのいのちは、キリストとともに、神のうちに隠されてあるからです。」とあるからです。もうすでに、私たちのいのちは神のうちにあります。ですから、神が私たちにいのちを与えてくださり、神の許にそのいのちがあると言えるのです。それゆえに、私たちは神のものであり、神のものであるゆえに、新しいいのちを与えられた者としてのふさわしい生き方をして行かなければいけません。今は確かに、私たちの肉の目で見ることができません。けれども、いつの日か、それは私たちの目で見ることが出来るものです。それは何時のことでしょうか？それが二つ目の理由です。

2. クリスマスは未来において完全なもの、キリストに似たものになる希望があるから 4節

4節「私たちのいのちであるキリストが現われると、そのときあなたがたも、キリストとともに、栄光のうちに現われます。」、この「現われます。」ということばは「明らかにする、知らせる」という意味があります。つまり、いつの日か必ずキリストが現われる日が来ると言うのです。これはイエス・キリストの再臨のことを教えています。そのときに確かに、今まで隠されていたものが明らかになると言うのです。ここでパウロは非常にすばらしいことを言っているのです。新しいいのちが現われるときに私たちはどのようなのでしょうか？「栄光のうちに現われます。」、つまり、私たちは栄光のからだをもって現われるのです。罪のない完全なからだです。そのようなものへと私たちは変えられるのです。キリストに似たものへと私たちは変えられます。

パウロはこのことを別の箇所でもこのように教えています。ピリピ人への手紙3：21「キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。」。永遠のいのちが現わされるだけでなく、私たちは栄光のからだを与えられ、それが現わされると言うのです。そのからだをいただいたときに、私たちはもう神を悲しませるような、失望させるようなものではなく、完全なものへと変えられるのです。まったく罪を犯さないからだとして、神を喜ばせる生き方をすることができます。また、神を完全な私たちで愛することができ、完全な私たちで礼拝することができ、完全な私たちで賛美することができるのです。そのようなものへと私たちは変えられるのです。神はこのような約束を私たちに与えてくださっています。

このような希望があるゆえに、私たちは新しいいのちを与えられた者としてふさわしい生き方をして行かなければいけません。私たちはその日が何よりも待ち遠しいと思っているはずですが、皆さんはこのようにすばらしい希望があるということ待ち望んでおられるのでしょうか？時として、私たちは目の前の様々な問題に不安になって、先の希望を忘れてしまっているということはないでしょうか？過去の信仰の先輩たちをみてください。様々な苦しみや迫害の中にあっても、彼らは神のためからだを張り、神の義のために生きて行きました。彼らはなぜそのような生き方ができたのでしょうか？それは未来における永遠のいのち、そして、完全なからだを与えられるというすばらしい約束を期待したからです。希望をもって励むべき生き方をしていったのです。彼らは新しいいのちを与えられた者としての歩みをして行きました。ですから、私たちも同じように、新しいいのちを与えられた者として生きるべき生き方をし、そして、なぜ、そのような生き方をしなければいけないのかという理由を覚えるのです。

私自身は確かに、聾の世界に入ることになりました。聞こえる世界から聾の世界へと、確かに大きな変化がありました。でも、それ以上に、私はキリストによって新しいいのちが与えられ、新しい生き方がスタートしたのです。皆さんも新しいいのちを与えられたものとしてふさわしい生き方をしていらっしゃるでしょうか？その生き方は簡単なものではありません。多くの苦しみや闘いがあるでしょう。けれども、それは目に見えない生き方ではありません。新しいいのちが与えられている生き方は、確かに、目に明らかなことです。ですから、私たちは神に喜ばれることを求め続け、また、思い続ける生き方をして行かなければいけません。私たちは神の子どもであり、光の子であり、地の塩であり、キリストのかおりを放つ者であるゆえに、そのような生き方を求めて行かなければいけません。皆さんはそのような生き方を求め思っておられるのでしょうか？皆さんは神に喜ばれる歩みをしたいと求め、そのことを思い願っ

ておられるでしょうか？私自身願っていることは、私たち一人ひとりが新しいいのちを与えられた者としてふさわしい生き方をさせていただきたいということです。なぜなら、皆さんはもうすでに新しいいのちが与えられているからです。もうその新しいいのちがスタートしているゆえに、皆さんはそのことを切に求め、そのことを思い続けてください。

近藤牧師より：

私たち信仰者がどのように生きるのか、しっかり上にあるものを求めながら、また、なぜそのような生きるのか？私たちは神のものだからと…。私たちはしっかり神を見上げて生きて行かなければいけません。私たちを惑わすものが私たちの周りにあふれているからです。感謝なことに、神は私たちがどのように生きて行くべきかを教えてくれています。信仰者の皆さん、しっかりと天を見ましょう。神が下さったすばらしい祝福です。私たちはもうまもなくイエスにお会いできるという、その希望をもって今日生きることができます。イエスのみ顔を拝することができるのです。そのような祝福は私たち罪赦された者にしか与えられていません。その希望をしっかりとって、今日、私たちはその主の前に正しく歩んで行くことです。それを神は望んでおられ、それを実践するための力を私たちにくださいます。どうぞ、感謝をもって希望をもって生きてください。私たちクリスチャンの特徴は希望です。この希望は失望に終わることがない、アーメンです。神が約束されたことは必ず成就する、だから、私たちは確信をもって生きることができるのです。だから、私たちは希望をもって生きることができるのです。しっかり主を見上げて、主の助けをいただきながらみことばに従い続けて行きましょう。そうすることによって、私たちが救われた目的を私たちは果たすことができます。神のすばらしさが証されます。そのような働きに主は用いてくださるのです。感謝なことです。